

～北関東の海の玄関口～

わたしたちの暮らしと産業を支える日立港区

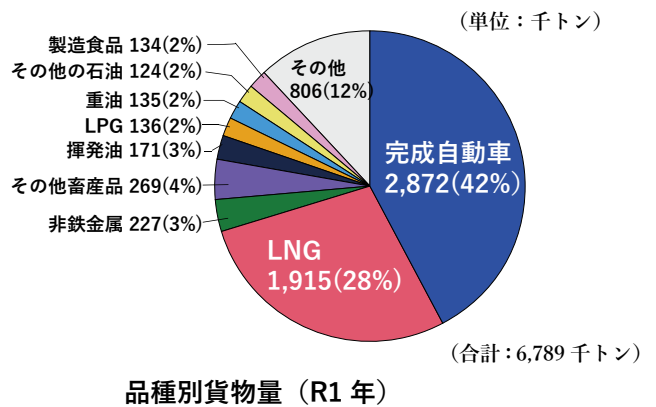
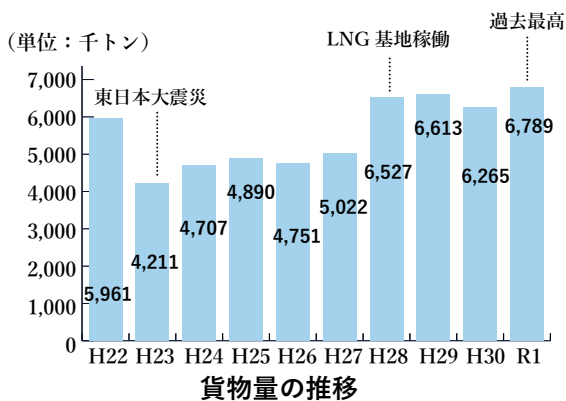
問合せ 産業立地推進課 内線 445



茨 城港日立港区は、昭和 34 年の第一船入港から 60 年を超える歴史を持った重要港湾です。北関東の海の玄関口として5つのふ頭に 14 の公共岸壁を有しており、近年では、「LNG（液化天然ガス）の受入れ」と「完成自動車の輸出入」を中心に発展を続けています。

港湾施設の整備進捗に伴い取扱貨物量も増加傾向にあり、令和元年には過去最高を記録しました。日立港区の振興により、今後も雇用創出や新たな産業の立地、地域経済の活性化につながることを期待されます。

日立港区の取扱貨物量



日立 LNG 基地の建設が完了しました

平成 28 年に運転を開始した東京ガス(株)日立 LNG 基地は、日立港区の利用拡大と新たな産業立地による雇用創出などを目的に、県と市が共同で誘致したものです。

今年 3 月、2 基目の LNG タンク及び同基地と神栖市を結ぶガスパイプラインが完成し、平成 24 年に着手した建設工事がすべて完了しました。

日立 LNG 基地を拠点として、茨城幹線(約 92 km)と茨城～栃木幹線(約 83 km)が首都圏につながる既設幹線とつながり、ガスパイプラインがループ化(環状化)することで、都市ガスの供給安定性が向上するとともに、首都圏を支えるエネルギー供給拠点としての日立港区の重要性がさらに高まっています。



東京ガスグループ「サステナビリティレポート 2020」より抜粋し、加工

第5 ふ頭地区の日立 LNG 基地



2号 LNG タンク

1号 LNG タンク

LPG タンク

大型栈橋

管理棟

ローリー出荷施設

【2号 LNG タンクの概要】

地上 PC 式 LNG タンク

貯蔵容量：約 23 万kl

貯槽外径：約 90 m

高さ：約 60 m

2号 LNG タンクは、1号 LNG タンクとほぼ同じ大きさで、地上式では世界最大級となります。LNG タンク 1 基の貯蔵容量は、一般家庭用の約 34 万軒分の年間ガス使用量に相当します。

日立 LNG 基地と ガスパイプラインの安全対策

都市ガスの製造・供給施設は、地震などの災害に強い構造となっており、運転状況を、コントロールセンターで 24 時間休みなく集中監視しています。

また、緊急時に備えて、基地内に化学消防ポンプ車を配備するとともに、定期的に消火防災訓練も実施しています。



①



②



③

①コントロールセンター ②化学消防ポンプ車 ③消火防災訓練の様子

津波防災施設が完成しました

東日本大震災に伴う津波の被害を踏まえ、今後想定される津波・高潮から、日立港区背後地の住宅や幹線道路などを守るため、県に津波防災施設の整備を要望しておりました。

これを受けて、県では、L1 津波（数十年から百数十年に一度の頻度で発生する規模の津波）に対応する防潮壁や陸閘を順次整備してきました。

今年 4 月には、津波水門遠隔操作管理システムを導入した瀬上川水門の運用も開始されるなど、港湾で働く方や市民にとって安全・安心の港づくりが進められています。



瀬上川水門



防潮壁・陸閘